

呉竹抄 (二九九)

金久美智子

多雲の日はア太閤スヘイイ
大抵目覚めぬもさる古裡なり
たんぽぽにしほれの見ゆる御苑かな

ほのぼのと咲き出しにけり山桜

「あも」が出て近江は納め句会かな

あもは近江の地なり
あもは近江の地なり
あもは近江の地なり

霜野果

星ある霜式田のちしむら申えて
忘れぬし人の心恋と

伊大尉は銀葉の史寄の歴史の上
附録を新の草本の秋をば

月免田の星のちしむら申えて
今歳春もも望み申はれぬ

潤の草花水花の日は
疲れや身を抜け出せり

大銀段難なるに上り秋屋解く

